

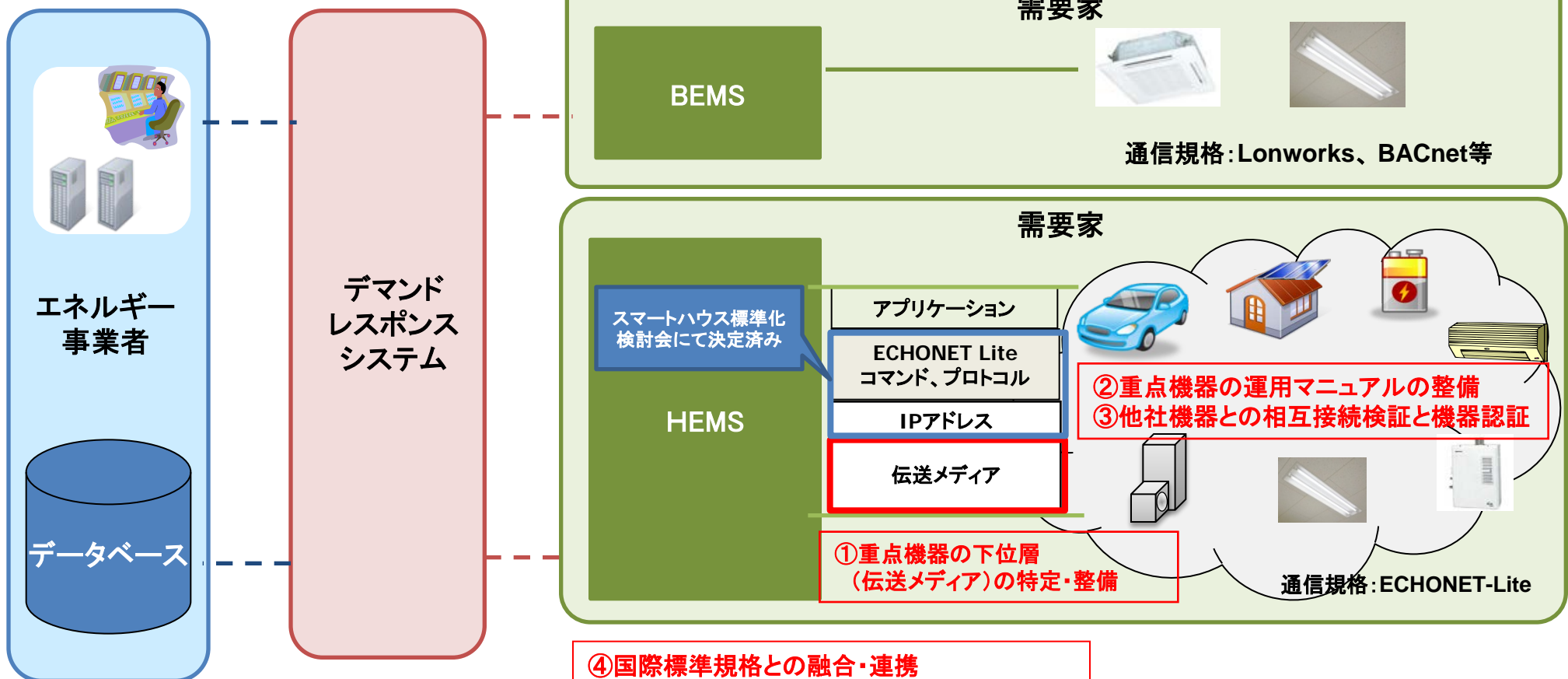
第2回スマートハウス・ビル標準・ 事業促進検討会の概要

平成24年9月

商務情報政策局

スマートハウス・ビル市場普及拡大に向けた5つの課題

⑤DR技術・標準の調査・研究



④国際標準規格との融合・連携

日本	米国
ECHONET Lite (策定済)	SEP 2.0 (策定中)
<ul style="list-style-type: none"> ・スマートメーターやPV、蓄電池を含んだ約80種類の宅内外機器の細かな制御が可能 ・需要家主導の制御 	<ul style="list-style-type: none"> ・セントラル冷暖房やプール循環設備のON/OFF制御等のみ可能であり、機器の細かな制御は今後検討 ・電力会社主導の制御

第2回スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会の概要

1. 5つの課題への対応状況と今後のスケジュール

①重点機器の下位層(伝送メディア)の特定・整備

・HEMSと各機器の間は公知な通信方式を用い、**メーカーが独自仕様を用いないことを合意**。

※例えば、Wi-Fi、Bluetooth、PLC等が考えられる。

・今年度中に、重点機器ごとの通信方式の詳細仕様(プロトコルスタック)を策定する。

②重点機器の運用マニュアルの整備

・**運用マニュアルにおいて整備すべき項目を決定**し、骨子として報告。

※具体的な項目としては、「事業者の責任分解点の整理」、「施工時の手順」、「カスタマーサポートの役割分担」等

・今年度中に、当該運用マニュアル第1版を策定・公表。

③他社機器との相互接続検証と機器認証

・相互接続検証や機器認証をサポートするため、神奈川工科大学に「**認証センター**」を**11月21日に開所**することを報告。

・今年度中に、中小企業を始めとする様々な事業者の参入を支援するための「**開発支援キット**」を整備する。

④国際標準規格との融合・連携

・海外規格との融合・連携を検証していくため、早稲田大学に「**実証センター**」を**11月1日に開所**することを報告

⑤DR技術・標準の調査研究

・全国共通に用いるデマンドレスポンスの手法として、既存方式である「**OpenADR**」を**ベースとした検討を進めることとする**。

・今後、我が国のニーズに合わせた詳細仕様を策定していく。

2. デマンドレスポンスタスクフォースの立ち上げ

○上記課題⑤で示されたデマンドレスポンス手法の詳細仕様の策定を加速化するため、本検討会に**デマンドレスポンスタスクフォース(DR-TF)**を設置し、作業を進める(今年度中に策定)。

○また、エネルギー管理システム(BEMS)導入促進事業などとも連携し、デマンドレスポンスの普及の加速化を目指す。